



ハイエンドAクラスの新モデル「デナ」。



同じくAクラスだが、より安全性を追求したモデル「リモ」もまもなくリリースされる。

2021年モデルとしてCクラスの「エピックドリーム」がリリースされる。カラーリングだけ発表されたが、性能など詳細はまだ未発表だ。



2020年は、Bクラスの「ピオスノボ」の軽量バージョン「ダスター」、Aクラスの初級グライダー「ハニー2」の後継機である「ハニー3」をリリースした。「ダスター」は、「パリ2」より重量が1kg近く軽量化され、わずかに異なる調整で少しダイナミックになっているという。

ウインドテックは、2021年モデルの第1弾を発表した。Cクラスの「エピックドリーム/midway boom」だ。同社は2013年にCクラスの「フェニックス」を発表して以来、Cクラスは8年ぶりのリリースだ。派手なカラーデザインは発表されているが、詳細は2021年1月に発表される予定だ。

2020年にUPはBクラスの「キボ2」とその軽量バージョンである「ロイツェ2」、軽量のハイエンドBクラスの「カンリノ/Stratus」、タンデムの「K2・4」をリリースした。「カンリ」は、加速性能に優れており、対象となるのは経験のあるベテランパイロットだ。メーカーによる「カンリ」はDクラス機の「メル」と「ス最高のハンドリングと卓越したパフォーマンスを備えている」とアナウンス。アスペクト5・2、50セル、5サイズでリリースされた。

さらに現在、Aクラスの「リモノ」も開発中で、完成も間近だ。性能を犠牲にすることなく安全性とイージーズを極限まで追求したグライダーを目指している。

2020年にUPはBクラスの「キボ2」とその軽量バージョンである「ロイツェ2」、軽量のハイエンドBクラスの「カンリノ/Stratus」、タンデムの「K2・4」をリリースした。「カンリ」は、加速性能に優れており、対象となるのは経験のあるベテランパイロットだ。メーカーによる「カンリ」はDクラス機の「メル」と「ス最高のハンドリングと卓越したパフォーマンスを備えている」とアナウンス。アスペクト5・2、50セル、5サイズでリリースされた。

さらに現在、Aクラスの「リモノ」も開発中で、完成も間近だ。性能を犠牲にすることなく安全性とイージーズを極限まで追求したグライダーを目指している。

UP International
ユービー

新モデルにハイエンドA「コナ」、Aクラス「リモ」

トリプルセブンは、かねてから開発中だったいくつかのモデルを2020年にリリースした。

Dクラスで3ライナーの新モデル「キング2」はなんと5年ぶりのモデルチェンジだ。セル数は前モデル「キング」の72に対して88と増え、シャードシステムも進化させたシステムになっているという。コンベアとして開発された「ギャンビット」の技術が、アスペクト比は5・6で、61セル、4サイズで2・6kgという軽さだ。

ハイエンドBの「ルーク3」も発売した。プロファイルはCクラスの「クイーン2」のものを採用している。スピードシステムが進化し、同じアスペクトだがフルバーがより使い易く、パフォーマンスも向上させている。アスペクトは5・0、40セル、重量はスカイテック27を使用して、19サイズで2・6kgという軽さだ。

同じく時間をかけて開発していた「P-ライト2」も発表された。前モデルでは17mと19・5mの2サイズだったが、今回は、わずかにサイズを大きくして19mと21mでのリリースとなった。

アスペクトは5・0、40セル、重量はスカイテック27を使用して、19サイズで2・6kgという軽さだ。

5年ぶりに「キング2」をモデルチェンジ。「ルーク3」の発売に加えて「P-ライト2」も発表

Triple Seven
トリプルセブン



Dクラスで3ライナーの「キング2」が5年ぶりに翼を持ってリリースされた。



2021年モデルとしてハイエンドBの「ルーク3」もリリースされる。

Windtech
ウインドテック